

[No. 1] 次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 種子や植物体が一定期間低温に遭遇することによって開花もしくは発芽誘導される現象を春化（バーナリゼーション）という。
2. 施設内の土耕栽培で多量の窒素肥料を施用すると、亜硝酸が土壤に蓄積されやすく、蓄積された亜硝酸がガスになって施設内の作物を枯らすことがある。
3. 発芽に適した環境条件をあたえても採種直後には発芽しないものがある。この現象を種子の休眠という。
4. 中耕は作物に適度な空間をあたえ、その後の生育をよくするために行う作業のことである。
5. 自家和合性とは、同じ個体内の自家受粉で受精・結実する性質のことをいう。

[No. 2] 次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 施設栽培において、果菜類の収量を高めるための環境制御技術の中心になっているのが窒素ガス施用技術である。
2. 植物は光合成によって自分で栄養となる炭水化物などの有機物を作り出せる「光独立栄養生物」であるが、人間や家畜を含む動物は、植物が作った有機物を利用しないと生きていけない。
3. 休眠状態が解除された種子が発芽するには、「温度（適温）、水分、酸素」が必要である。
4. 蒸散量が多くなりすぎると、気孔が閉鎖し、CO₂の葉内への取り込みが抑制されて光合成速度が低下する。
5. 光合成と呼吸は、炭水化物の合成と分解という相反する生理作用である。

[No. 3] イネの育苗に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. うるち米において、胚乳がよく充実した優良な種もみを選ぶために行う塩水選は、比重 1.13 の塩水に種もみをつけて、沈んだものを集める。
2. 発芽を促進するために行う浸種は、積算温度で 100℃を目安に水に浸す。
3. 発芽を促進するために、浸種後の種もみを 32℃の温水に 20 時間程度浸け、幼芽と幼根がわずかに発生した状態にする。これを芽出し（催芽）という。
4. 一般に、種子が発芽するためには水分・温度・酸素が必要であるが、イネは酸素が不足する環境下でも、鞘葉と種子根が同時に伸び正常に発芽する。
5. 稚苗育苗は、密植して育苗することができるので育苗面積が少なくてすみ、育苗期間が短いことから、現在、最も多く利用されている育苗方法である。

[No. 4] イネの水管理に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 移植直後の苗は根が少ないので苗のしおれを防ぐほか、水の保温効果により苗を保護するために、苗が水没しない程度の深水管理にする。
2. 盛夏には硫化水素などの有害物質が生成し、イネが根腐れを起こすことがあるため、浅水管理や田干しを行う。
3. 最高分げつ期ごろに落水し田面を乾かすことで無効分げつの発生を抑える。
4. 穂ばらみ期から出穂期にかけては特に水を必要とする時期であり、この時期に水が不足すると不稔粒が発生する。
5. 登熟が進んで穂が傾き始めたら、収穫期を早めるためにできる限り早く落水し、水田を乾かす。

[No. 5] イネに関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 米は、おもに「日本型」「インド型」「ジャワ型」に分類される。近年、世界的にも品種の多様化が進み、世界で栽培される米のうち、「日本型」が作付面積の80%以上を占めるようになってきた。
2. イネ品種の早晚性は、それぞれの品種が持つ基本栄養成長の長短と、感光性・感温性の大小とによって決まる。
3. イネの品種特性として、穂数が多く1穂重が軽いものを穂数型品種、穂数が少なく1穂重が重いものを穂重型品種とよぶ。
4. イネの収量は、穂数、1穂もみ数、登熟歩合、千粒重の4つの要素からなり立っており、これらを収量構成要素という。
5. いもち病は発病が甚だしい場合には収穫皆無となる恐ろしい病気であるが、イネの品種によって、遺伝的に抵抗性のある品種と無い品種がある。

[No. 6] ムギに関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. コムギは、製粉したときのグルテン含有量と粉の性質によって用途が分かれ、グルテン含有量の多い小麦粉を強力粉、少ないものを薄力粉という。
2. オオムギの用途は、麦飯用などの食用、麦茶用、ビール醸造用、焼酎醸造用、味噌醸造用および飼料用など、多岐にわたる。
3. ムギの栽培には、冬季に地下水位が40センチ以下に下がり、畑状態になる排水の良い圃場が適している。
4. ムギの花芽分化には一定の低温期間が必要であり、低温要求度が高く、長い期間低温にあわないと出穂しない品種を、春播性品種という。
5. 受精後の成熟過程は、乳熟期→黄熟期→完熟期→枯熟期となる。

[No. 7] ダイズに関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. ダイズの種子は無胚乳種子で、種皮と胚とからなり、胚は子葉と幼芽・胚軸・幼根を備えている。
2. ダイズには、有限伸育型と無限伸育型があるが、わが国で栽培されている品種の多くは有限伸育型である。
3. ダイズの根には、胚軸から生ずる定根のほかに、子葉上部の茎から発生する不定根がある。土寄せして不定根の発生を促すと耐倒伏性が増す。
4. ダイズは、発芽後ただちに根粒菌が寄生し空気中の窒素の固定を始めるため、元肥は窒素成分の入っていないものを使う。
5. ダイズの要水量は水稻より多く、開花期から莢成長期には特に多くの水を必要とする。

[No. 8] マルチ（土壌被覆）の目的の説明として、**誤っているもの**はどれか。

1. 地温調節、土壌物理性の保持、肥料の流亡防止、土壌水分の蒸発抑制効果などにより、生育を促進させる。
2. 降雨時の土壌の跳ね上がりを防止し、病気の発生を軽減する。
3. 可視光線を遮断することにより土壌中の病害虫増加を抑え、連作障害を軽減する。
4. 降雨による表土の流失や固結を防止し、耕起によって形成された膨軟な状態を維持する。
5. 土壌表面からの雨水の浸入、水分の蒸発を防ぎ、土壌水分の変動を緩和する。

[No. 9] 野菜の育苗方法の説明として、**誤っているもの**はどれか。

1. 地床育苗：資材を必要としないので生産コストが抑えられるが、採苗時に断根しやすいため植え痛みが懸念される。
2. ソイルブロック育苗：成型した育苗用土を用いた育苗方法であり、発根量は少ないが活着が良い。
3. ポット育苗：育苗用土を目的に応じた大きさのポットに詰めて育苗する。単独ポットと連結ポットがある。
4. セル成型育苗：根鉢が一定の形になるように作られたセルトレイを用いて育苗する。用土が少なく乾燥しやすいので、プール育苗が一般的である。
5. 接ぎ木：土壌伝染性病害に対し抵抗性の強い植物を台木に用い、ナス、キュウリ、メロン、トマトなど主に果菜類で行う。

[No. 10] 野菜に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. キュウリは雌雄異花で虫媒による他花受粉である。しかし、単為結果性が強く、受粉・受精しなくても結実する。
2. トマトの第1花房は第8～10節の節間につき、以降、3葉ごとに花房をつける。
3. ナスの花は、株の栄養状態によって、花柱の長さが変化し、肥料不足、日照不足などで樹勢が弱ってくると多くなる長花柱花は、ほとんど落花する。
4. イチゴのランナーは長日・高温条件で発生し、花芽は短日・低温条件で分化する。
5. スイートコーンは他の品種と容易に交雑しキセニアが起こるため、他の品種とは100～200m程度離して栽培する必要がある。

[No. 11] 花き栽培に用いる用土に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 赤玉土は、火山灰土壌の下層部分の土を一定の大きさの粒に分けたもので、用土の母材となる。
2. ピートモスは、ミズゴケなどが湿地で堆積・変質したもので、アルカリ性で保水力が高い。
3. バーミキュライトは、かんらん石や雲母群鉱物などを高温で加熱処理したものであり、軽量で保肥力がある。
4. パーライトは、真珠岩を高温で加熱処理したものであり、軽量で中性である。
5. 鹿沼土は栃木県鹿沼地方で産出される土で、通気性、排水性がよく、強酸性である。

[No. 12] 栄養繁殖に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 植物体の芽と葉をつけて親株から切り分ける繁殖方法を株分けという。
2. 接ぎ木は、実生と比べて開花・結実に至るまでの年数が多くかかる。
3. ユリのむかごを用いるのも栄養繁殖である。
4. さし木には、葉ざし、葉芽ざし、茎ざし、根ざしなどの方法がある。
5. 茎頂の生長点を培養して増殖する方法も栄養繁殖の一つである。

[No. 13] 果樹の仕立て方に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 主幹が中央にまっすぐ立っている樹形を主幹形といい、樹勢は強く保てるが、樹高が高くなり、作業が困難になりやすい。
2. 主幹形で育てた後、主幹を一定の高さで切り、主枝を3～4本配置する樹形を変則主幹形という。
3. 開心自然形とは、枝が横に広がりやすいかんきつやモモなどで利用されるもので、主幹を60～90 cmとして、主枝を3～4本斜め上に配置する樹形のことをいう。
4. 棚仕立ては、樹園内に設置した棚に枝を誘引して固定するもので、つる性のブドウ、キウイフルーツのほか、風による落果防止などを目的としてナシで利用されている。
5. ジョイント仕立ては、温州ミカンで開発された最新の仕立て方で、主幹を長く伸ばした専用苗を用い、定植時に先端を隣の樹に接ぎ木してつなげる超早期成園化技術である。

[No. 14] 果樹と品種の組合せのうち、**誤っているもの**はどれか。

1. モモ：日川白鳳、あかつき、なつおとめ
2. 温州ミカン：ゆら早生、小原紅早生、大津四号
3. キウイフルーツ：香緑、さぬきゴールド、ヘイワード
4. ブドウ：シャインマスカット、ピオーネ、マスカット・ベリーA
5. カキ：愛宕、太秋、蓬莱柿

[No. 15] 次の品種群のうち、ビワの組合せはどれか。

1. なつたより、茂木、長崎早生
2. 清見、せとか、不知火
3. あきづき、愛宕、二十世紀
4. ちよひめ、日川白鳳、あかつき
5. シナノゴールド、紅玉、ふじ

[No. 16] 次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 固定種とは、単独の親品種から何世代もかけて選抜淘汰を繰り返して作り続けられてきた品種のことである。
2. 一代交配品種は F_1 品種とも呼ばれ、固定した形質を持った 2 品種を親として交配した雑種第一代目の品種である。
3. F_1 品種は、雑種強勢により生育が旺盛で収量が増加するだけでなく、形質が揃うため大量生産・大量流通に適している。
4. F_1 品種の種子生産においては、自家不和合性、雄性不稔、雌雄異株などを利用した採種技術が用いられている。
5. F_1 品種を栽培し、これから採種した種子を播種して栽培すると、生育が旺盛になり、植物体や収穫物がより斉一化する。

[No. 17] 次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 育種とは、作物の種が有する多様な遺伝変異を活用して、目的にかなった遺伝的性能をもつ新しい品種を育成することである。
2. 在来の集団の中に含まれている特性の中から、特定の特性を選び出して新品種を作り出すことを選抜育種法という。
3. 交雑によって変異を拡大し、その中から両親が持っている優良な特性を併せ持つ個体や両親を超える優良な個体を選抜する手法を交雑育種法という。
4. 突然変異育種は、ある生物の有用な遺伝子を別の生物に導入することで、新しい性質を付与する育種技術である。
5. 人間の改良によって育成されてきた栽培種は、農業上の利点のみを追求するために、耐病虫性や環境ストレス耐性など環境に対するさまざまな適応性を失っていることが多い。

[No. 18] 次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. F_1 品種の種子生産において、トマトやキュウリでは除雄と人工授粉によって行うが、タマネギでは雄性不稔が利用される。
2. 育種は、変異の拡大、選抜、固定の 3 つの過程から成り立っている。
3. バイオテクノロジーや DNA マーカーは、これまでの従来の育種法を補助・補完するものである。
4. 育成された新品種は、種苗法に基づいて登録を行うことにより、育成者の権利が保護される。
5. 自家受粉によって生じた個体群をクローンと呼び、突然変異が起こらない限り、遺伝的にヘテロのまま形質を維持することができる。

[No. 19] 害虫防除に関する次の記述のうち、**誤っている**ものはどれか。

1. 害虫防除は、害虫の卵や若齢幼虫時の早期発見が基本である。
2. 周囲の雑草は、アブラムシやダニなどの好適な住処となるので、作物に移動しないよう小まめな除草は避ける。
3. 防虫ネットやシルバーマルチなどの活用でチョウ・ガ類、有翅アブラムシの飛来を押える。
4. センチュウ対策では、輪作・混作などで生育密度を下げるのが基本である。
5. 害虫の発生しやすい時期を避けるため、作型を早めたり、熟期の違う品種を用いることがある。

[No. 20] 作物の病理に関する次の記述のうち、**誤っている**ものはどれか。

1. 作物の伝染性の病気は、カビ、細菌、ウイルスなどを病原体とし、中でもカビの一種である糸状菌によるものが最も多い。
2. 糸状菌による病気はキュウリのうどんこ病など土壌伝染性のものやハクサイの根こぶ病など空気伝染性のものがある。
3. ベト病は空気や水から感染し、長雨など多湿の時に多くの野菜や草花に発生する。
4. ウイルスによる病害は殺菌剤では防除できない。
5. ウイルスの多くは、感染した植物を吸汁した昆虫などによって媒介される。

[No. 21] 次のうち、水稻の病害で**ないもの**はどれか。

1. いもち病
2. 紋枯れ病
3. 赤かび病
4. 籾枯れ細菌病
5. 縞葉枯れ病

[No. 22] 病害と防除に関する次の記述の□に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

作物の病害発生には、□A□となる病原体の存在、□B□となる作物の生育不良、□C□となる病害が発生しやすい環境があげられ、病害はこの3つの要因が重なり合う時に発生する。また、病害対策の3つの基本は□A□を減少させるために農薬（殺菌剤）を使用したり、輪作を行う。□B□を小さくするためには、適切な栽培管理や抵抗性品種や接ぎ木苗の導入があげられる。□C□の制御のために雨よけ栽培やシルバーマルチ、防虫ネットの活用、日あたり、風通し、水はけを良くすることが大切である。

A	B	C
1. 素因	主因	誘因
2. 素因	誘引	主因
3. 誘引	主因	素因
4. 主因	素因	誘因
5. 主因	誘因	素因

[No. 23] 昆虫に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 昆虫は体が「頭」「胸」「腹」の3つの部分に分かれる。
2. 胸部から3対（6本）の足が出ている。
3. 2対（4枚）の翅（はね）があるが、退化しているなどの例外がある。
4. 足が4対（8本）あるクモは昆虫ではない。
5. ムカデやヤスデなど足の数の多いものやカタツムリなど足のないものも昆虫である。

[No. 24] 各種の害虫防除法に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 耕種的防除とは、作期移動・輪作・混作や害虫抵抗性作物の利用をすることである。
2. 物理的防除法としては捕殺、湛水やかん水、熱の利用、ネットや不織布の利用のほか、光を使った防除がある。
3. 非選択的な殺虫剤を使用することによって害虫だけでなく天敵や天敵の餌となる虫なども除去され、完全に害虫のいない状態になることをリサーチェンスという。
4. 生物的防除法としては、天敵を野外に接種的に放飼し、定着・増殖・分布拡大を期待する接種的利用法と作期ごとに比較的高密度の天敵を放飼する大量放飼法の二つがある。
5. 特殊な防除法として性フェロモン活用や強力な化学物質による誘引、放射線を利用した不妊虫放飼があり、沖縄県ではウリミバエの不妊虫放飼が今でも行われている。

[No. 25] 農作物の害虫、寄生植物及び加害部位の組合せとして正しいものはどれか。

害虫	寄主植物	加害部位
1. コナガ	ダイズ	葉
2. ニジュウヤホシテントウ	ジャガイモ	塊、茎
3. ツマグロヨコバイ	タバコ	葉
4. ヤノネカイガラムシ	小麦	穂
5. スクミリンゴガイ	水稻	茎、葉

[No. 26] 連作障害に関する次の記述の□に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

近年、「土の健康」が大きな問題になっている。古くから□Aと小規模多品目の□Bを行ってきた日本農業は、第2次世界大戦以後、高度経済成長の中で野菜などの産地形成、大規模化、単作化が促進されてきた。□Aは連作が可能な農業形態であるが、□Bは毎年同じ土壌に同一または近縁の作物を栽培し続けると、多くの作物において生育が劣化したり、ひどい場合には収穫皆無になることもある。これは連作障害として知られており、□Cともいわれる。

A	B	C
1. 水田稲作	畑作	いや地
2. 堆肥	畑作	いや地
3. 堆肥	家庭菜園	輪作
4. 水田稲作	家庭菜園	輪作
5. 水田稲作	畑作	土壌消毒

[No. 27] 土壌に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 土の粒子は、砂や粘土などの無機物と、黒い腐植となった有機物などからできており、それらの個体の部分は固相と呼ばれる。
2. 土壌は、大きささまざまな土の粒子と、粒子と粒子の間の隙間から成り立っている。
3. 土壌の隙間には水と空気が存在しており、水の部分を液相、空気の部分を気相という。
4. 固相、液相、気相の3つをあわせて土壌の三大構造と呼ぶ。
5. 畑の作土では、土、水分、空気の割合が4:3:3となることが理想とされる。

[No. 28] 土壌に関する次の記述の□に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

土性の区分は、日本（日本農学会法）では5つに分けている。作物の栽培に適した土壌は、砂などのほかに粘土を25%～38%程度含む□Aといわれる土性である。□Aに次いで作物栽培に適しているのは□Aより少し粘土の多い□Bである。

- | A | B |
|-------|-----|
| 1. 埴土 | 埴壤土 |
| 2. 砂土 | 砂壤土 |
| 3. 壤土 | 埴壤土 |
| 4. 壤土 | 砂壤土 |
| 5. 埴土 | 砂壤土 |

[No. 29] 植物の生理に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 光合成とは葉緑体の中で光のエネルギーを使って空気中のCO₂と根から吸収したH₂Oとを合成して自らの栄養源となる炭水化物を作り出すことをいう。
2. 植物は呼吸を行っており、体内に酸素を取り込んで炭水化物などを分解し、生物が体を維持・成長するのに必要な生命活動エネルギーを取り出す。
3. 植物体を構成する細胞の細胞壁はセルロースやリグニンでできており、光合成産物の炭水化物が材料になっている。
4. 光合成には光が必要であるので日中に行われ、呼吸は夜間のみに行われる。
5. 光合成量が呼吸量より多い場合は、生命を維持し、残った物質(炭水化物)によって成長が進むので、いかに光合成を促進させるかが重要である。

[No. 30] サイレージ調製に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. 微生物の活動を活発にするため、貯蔵の際は密封せず通気性を良くする。
2. トウモロコシをサイレージにする場合は、穀実の充実期を避ける。
3. サイロ貯蔵する際は完全に乾燥させ、植物体の水分がなくなった状態で行う。
4. 乳酸発酵が促進されることによって、高品質なサイレージとなる。
5. 材料はあまり細かく切断しない方が通気性も良く高品質なサイレージとなる。

[No. 31] 乳牛の搾乳に関する説明として、正しいものはどれか。

1. 搾り過ぎ（過搾乳）は、乳頭孔を傷つけ乳房炎の原因となるので気を付ける。
2. 乳牛のアレルギー反応を防止するため、搾乳時にゴム手袋を着用することは望ましくない。
3. 搾乳前に乳房を拭き取る際、10頭までは1枚のタオルを使用して構わない。
4. 空気漏れ（ライナースリップ）は、搾乳終了の合図なので直してはいけない。
5. ストリップカップに前搾りを行うのは、伝染病予防のため乳房炎の牛のみとする。

[No. 32] 近年の日本の畜産に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. 畜産物の輸出実績（輸出額）は牛肉が最も多い。
2. どの畜種においても畜産物の生産量は増加傾向である。
3. 全国の飼養頭羽数は、乳牛のみ減少傾向である。
4. 飼養戸数は、全ての畜種において増加している。
5. 一戸当たりの飼養頭羽数は、ブロイラーと豚のみ増加し続けている。

[No. 33] 次の記述のうち、農業簿記上は取引として扱わないものはどれか。

1. 農舎に貯蔵していた乾燥・調整済みの米が、水害で浸かってしまい、販売できなくなった。
2. 来年収穫予定のブドウの予約注文を受けた。
3. 代金の支払いは月末という約束で、レタスをレストランに直接納入した。
4. 新規顧客を開拓するため、生産した鉢花の一部を見本として県内外のホームセンターに無償で送った。
5. 注文したコンバインが届いたが、導入価格の半額は国の補助金、残りは制度資金を充てたため、自己資金は全く使っていない。

[No. 34] 4月3日にコンバインを8,400,000円で取得した。当期の減価償却費を月割計算で求めた場合、正しいものはどれか。なお、耐用年数は7年、備忘価額は1円、計算は定額法とする。また、会計期間は1月1日から12月31日とする。

1. 1,200,000円
2. 1,199,999円
3. 900,000円
4. 899,999円
5. 100,000円

〔No. 35〕 次の勘定科目のうち、資産に分類されるものはどれか。

1. 売掛金
2. 資本金
3. 農薬費
4. 買掛金
5. 長期借入金

〔No. 36〕 生鮮食品の選び方に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 野菜や果物類は色が鮮やかでつやがあり、つぶれていないものを選ぶ。
2. 肉はつやが良く、肉汁の出ているものを選ぶ。
3. 魚（一尾）は身に張りや弾力があるもので、目が白く濁っているものを選ぶ。
4. 魚（切り身）は透明感とつやがあるもので、液汁の出ているものを選ぶ。
5. 牛肉は古くなると赤みが黒ずみ、豚肉は古くなると灰色になるので選ばない。

〔No. 37〕 消費期限と賞味期限に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. 賞味期限は品質が保たれ、おいしく食べられる期限をいう。
2. 賞味期限は品質の劣化が比較的遅いハムやソーセージ、スナック菓子などに表示される。
3. 消費期限は安全に食べられる期限をいう。
4. 消費期限は一度開封したら期限表示に関わらず早く食べることを望ましい。
5. 消費期限は弁当やサンドイッチなどに表示され、一般的に JAS マークといわれる。

〔No. 38〕 農業機械に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. ディーゼルエンジンは構造的に燃料噴射ポンプや点火プラグなどが必要である。
2. 刈り払い機やチェーンソーによく用いられるガソリンエンジンは 2 工程機関である。
3. ディーゼル機関は、圧縮点火という特性から、ガソリン機関よりも一般に圧縮比が低い。
4. コンバインとは農業で移植作業を行う時に使用する代表的な農業機械である。
5. 正確な締め付けトルクを必要とするときに使用する工具をユニバーサルジョイントという。

[No. 39] 乗用トラクタに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. トラクタのブレーキペダルは、乗用車と同じく一つである。
2. ホイル（車輪）型トラクタは、クローラ型トラクタに比べてけん引力が大きく、不整地や湿潤地での走行に適している。
3. トラクタは、ほ場における耕うん、整地、管理作業などを主目的とするため、差動装置（デファレンシャルギア）は備えていない。
4. トラクタの多くはガソリン機関が装備されている。
5. PTO とはパワー・テイク・オフの略称である。

[No. 40] 農業機械に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

1. フォーレージハーベスタは、生草又はサイレージ用の飼料作物や牧草の刈り取り、拾い上げ・細断、運搬車への積み込みの3工程を同時に行う機械である。
2. カントリーエレベータは、穀物を共同で乾燥・調製・バラ貯蔵する大規模な施設である。
3. ライスセンターは主に籾の乾燥・調製・包装・出荷を一括して処理する施設で、貯蔵施設を持たないことからカントリーエレベータとは区別される。
4. 精米機は、玄米から果皮や種皮、ぬかを取り除き、白米に調製するためのものである。
5. カメムシによる被害を受けた斑点米を除去、選別することを目的に使われる機械としてライスグレーダーがある。